

義歯建築家®登場の時代～52年の経験から紐解く、患者想いの基本的活動について～

川島 哲

少子高齢化する我が国の人口動態は、加速度を増し、世界一の長寿国となりました。その影響で、欠損補綴のボリュームゾーンはますますデンチャーへと追い風です。その中で、現代歯科医療の進歩により高齢者の義歯化傾向は、総義歯が減少する状況です。

そのことで、残存歯に対する鉤歯の考え方も、MI(低侵襲)の傾向にあり、レスト含めたマウスプレパレーションも最小限に留める傾向です。たとえ歯冠修復する場合であっても、積極的にデザインクラウンを推奨する傾向は減少しつつあります。

そこで今回は、私の半世紀に及ぶ生命維持装置(Denture)製作経験を踏まえて、いわゆる義歯に生命力を与える考え方(義歯建築家®)への道を披露いたします。同時に歯科医療人としての新たな行動と経済的立場の確立をお話させてください。ゆとりある歯科技工(Denture)ライフを目指して。